

平成二十八年年度岐阜薬科大学入学式 式辞

本日ここに、平成28年度、学部第88回、並びに大学院第54回の入学式を挙行いたしましたところ、大変ご多忙にも拘わらず、岐阜市長・細江茂光様、岐阜市議会議長・竹市勲様、岐阜大学長・森脇久隆様、岐阜薬科大学同窓会長・宇野進様、岐阜薬科大学後援会長・吉元一弘様はじめ、多くのご来賓の方々にご臨席を賜り、新入学生を祝福していただきますこと、大学を代表して心より厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

新入生の皆さん、大学院及び大学への入学、誠におめでとうございます。

長年にわたるご努力が実り、本日の入学式に臨まれた皆様方には、心からお祝い・お慶びを申し上げます。また、ご家族の皆様方におかれましても、そのお慶びはひとしおのものと推察いたします。重ねて、お祝い・お慶びを申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、新入生の皆様は、本日から岐阜薬科大学の学生であります。

今日は、「本学の教育・研究体制など本学の概要」と、「これから学生生活を送られる上での心構え」などについて、お話しをさせていただきます。

まず、1つ目は「本学の概要」についてであります。

本学は、昭和7年・1932年に当時の松尾岐阜市長様、多額のご寄付をいただいた渡辺甚吉様をはじめとする多くの方々のご尽力により、岐阜薬学専門学校として創立されました。その後、昭和24年の学生改革により岐阜薬科大学として新しく発足し、その4年後の昭和28年には我が国における薬学系の大学としては初となる修士課程の大学院を、東京大学薬学部、京都大学薬学部とともに設置しました。更に昭和40年には大学院博士課程を設置するなど、高度な研究を基盤とする薬学教育の先鞭をつけてまいりました。

以来80有余年に及ぶ歴史の中で、建学の精神である「強く、正しく、明朗に」をモットーに高邁な人格形成と、「グリーン・ファーマシー」いわゆる「人と環境にやさしい薬学、安全で安心を提供できる薬学」を基本理念とした薬学教育を通じ、人の健康と福祉に貢献できる人材の育成に努めてまいりました。

その間、約1万1千人を超える卒業生が、病院や薬局などの医療機関、製薬会社などの医療業界、国や地方公共団体などの行政機関、更には大学や研究機関など幅広い分野で活躍されていることは、本学の誇りとするところであります。

現在、本学はご承知のとおり、10年前から始まった6年制の薬学教育のもと、学部としては薬学科と薬科学科の2学科があります。

このうち、「薬学科」においては、「安全で確実な薬物療法を提供できる薬剤師」及び「地域や社会のニーズに向き合い、健康で質の高い社会を築くことに貢献できる薬剤師」を育成することを目的として、6年間の薬学の学びの中で、医薬品に関する基礎的知識の習得や、4回生からの研究室配属による研究能力の習得、病院や薬局での長期実務実習を通じての医薬品に関する高い専門能力、更には、倫理観、コミュニケーション能力、そして現実をしつかり見ることができる確かな目をもった人材の育成に努めております。

「薬科学科」においては、学部卒業後、大学院を経て、「医薬品の研究、開発の中核となる研究者や技術者」を育成することを目的として、医薬品の専門的な研究はもとより、「医薬品開発をデザインしたり、医薬品の規制や流通のあり方、グローバル展開など経営的戦略を考えたりする、ダイナミックな高度の薬学専門知識を併せ持つ人材の育成に努めております。

また、大学院などの研究体制としては、「伝統の中からこそ真の改革的教育・研究が生まれる」との信念のもと、情熱的で優れた教員の指導のもと、自由闊達な研究が進められております。また、「いかに患者さん個々人の治療の向上に役立つ薬へと改良していくか、また、正しく薬を使うかを研究する“育薬”」と、「難病治療などに向け、世界に発信できる新薬を研究する“創薬”」というプロジェクトに沿った研究も進めております。

また、「疾患の早期発見や安全で有効な個別化治療」へと移行しつつある医療の社会的ニーズに因應するため、岐阜大学の医学部及び工学部の教育・研究機関と連携して、全国初となる国立大学法人と公立大学が連携した「岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科」を平成19年に開設し、創薬科学及び医療情報学を中心とする教育・研究を展開し、高度な専門性と先見性、柔軟な発想を有する最先端な領域で活躍できる人材の育成にも努めております。

さらに、民間企業からの寄附講座としてグローバル・レギュラトリー・サイエンス講座の開設や、中京大学との連携による経営管理修士、いわゆるMBAのダブルディグリーの取得制度の創設、さらには岐阜県保健環境研究所との連携による危険ドラッグの検出技術の開発等、他の大学にはない取組を行っております。

また、大学での教育、研究成果を社会に還元し、地域の質を高めるための「知の拠点」

として、生涯学習や市民講座をはじめとする市民を対象とした教育講座や、地域包括ケアシステムを推進するために重要な役割を果たす「かかりつけ薬剤師」を養成するため、「岐阜薬科大学認定薬剤師」講習会を開設するなど、地域及び国際社会に貢献する取り組みも進めております。

今後は、益々進展する高齢化社会や、環境技術がキーワードとなる高度文明社会において、高度な研究に裏付けられた教育のできる大学を、皆様方と力を合わせ目指してまいります。

次に2つ目の「学生生活を送られるうえでどの心構え」、具体的には「学び」、「学問の道」についてお話しさせていただきます。

大学生としての学びのスタイルは、高校までのそれとは大きく異なります。高校時代は「教えを受ける人」として「生徒」と呼ばれていました。しかし、大学の学びのスタイルは、自ら求めて学び、自ら考え、自らの考えを持ち、獲得した知識を活用し、表現し、実践することであります。まさに「学ぶ人」、「学生」であります。

ドイツの哲学者、カントは「啓蒙とは何か」という本の中で、「自ら知る勇氣を持って、自分の理性を使う勇氣を持つ」と、そうでないと、いつまで経っても「未成年のまま」だ、と言っております。

「授業で習い、書物を読み、新しい情報を得たら、それらを鵜呑みにせず、まず、自分なりに考え、意見を持つようにして欲しい」と思います。

もちろん、これからも多くの教えを受けなければなりません。学生の本分を忘れることなく、自ら学問を収めることに強い意欲と気概を持って、日々、前進する生活を送ってください。

中国の故事に「繩鋸木断（じょうきよ・ぼくだん）」、「水滴石穿（すいてき・せきせん）」という言葉があります。これは「繩ものこぎりのように、継続すれば木を断つことができる。水滴も繰り返せば、石を穿つ（うがつ）ことができる。道を学ぶものは、このように努力を続ける心がけが必要である。」という意味であります。学問の道は極めてかわしいものです。困難を乗り越え、またスランプに落ちた時は、日々努力し、再起していくのが学問の道であります。常に向上心、問題意識を持って、「夢」を持ち、「夢」をただ「夢」で終わらせるのではなく、「夢」を「目標」として努力し、「実現」してください。

新入生の皆さん、薬学の道を究めるところができる環境を与えていただいた、ご両親、そしてこれまで指導していただいた多くの恩人に感謝し、その期待に報いるためにも、これからの学生生活の中で、多くの新しい先生、多くの友に出会い、その出会いからさらに多くの知識、言葉に出会って、自ら豊かな感性と悟性の涵養に努めていただきたい

と思います。

さらにグローバル社会に適切に対応するため、機会があれば積極的に海外に出向き、異文化に触れることにも心がけていただければと思います。

一度しかない貴重な青春時代を有意義に、かつ満ち足りた学生生活を送られることを祈念いたしますとともに、私ども岐阜薬科大学すべての教職員が全力でサポートすることを約束し、私からの式辞といたします。

平成28年4月8日

岐阜薬科大学長 稲垣 隆司